

主 題：来る者を拒む主 4

聖書箇所：マタイの福音書 19章28－29節

今、賛美した通り「我ささぐ、みなささぐ」と、これは弟子たちが為したことです。

「私たちは何がいただけるのでしょうか？」というペテロのことばは弟子たちの頭の中にあつた疑問でした。弟子たちはイエスが金持ちの青年と話をすることを聞き、そして、弟子たちに対して会話の中で示された真理を説明されるのを聞きました。弟子たちは熱心に永遠のいのちを求める者がそれを得ることなく去って行ったのを見ました。彼らはイエスが「人間の力で救いを得ることは不可能である」ということを明確に宣言するのを聞きました。彼らは、問題をはっきりと理解していました。問題になっていたことは、人々がすべてを捨ててイエスに従うかどうかということでした。彼らはこの金持ちの若い役人がそれを行うことが出来なかったのを見ていました。そして同時に、彼らはその人間の力ではすることが出来ない、すべてを捨ててキリストに従うというその決断を自分たちがしたことを知っていました。彼らは確かにすべてを捨ててイエスに従ったのです。ペテロは言いました。「**ご覧ください。私たちは、何もかも捨てて、あなたに従ってまいりました。**」(マタイ19：27)と。そのような彼らが持っていた疑問、それはすべてを捨ててあなたに従ったその報いとして私たちは何をすることが出来るのですか、ということでした。それだけを聞くと非常に利己的に聞こえることばです。それに対して、イエスはペテロや弟子たちを責めることはなさいませんでした。少なくとも直接的にはなさいませんでした。けれども、その代わりに、イエスは彼らの疑問に対して、彼らの質問に対して、非常に丁寧にいったい彼らに何が与えられるのかを説明して下さったのです。この質問は、彼らが知るべきこと、彼らがしなければならないことをその回答によって知るべきものです。彼らは報いとして何が与えられるのかを知るべきだったのです。

前回、私たちはこの約束の最初の部分を見て終わりました。イエスはここで弟子たちに三つの約束をしています。彼らがすべてを捨ててイエスに従って行ったときに何を受けるのでしょうか？その約束が三つあるのです。

☆救いの条件とその報い

1. 真のクリスチャンの歩み
2. 真のクリスチャンへの約束

1) 未来における約束

最初の約束は、「未来における約束」でした。この約束は特に12人の弟子たちに与えられた約束だったことを前回見ました。どのような約束だったのでしょうか？それは未来において彼らが12の座に着くというものでした。イエスが患難時代を終えてイスラエルとの契約を成就するためにこの地上に戻って来られ、そして、そこで契約の成就としてこの地上に設立される千年王国、そこでダビデに約束されたダビデの御座に救い主が着くその時に、彼らは12部族の上に立つその御座に着くとイエスは約束されたのです。この千年王国の時代は前回も簡単に説明したように、非常にすばらしい時です。イエスはその王権を完全に発揮されて、そして、義と平和をもってこの地上を治めるときです。神の真理によってこの地上すべてが治められるそのときです。人が罪を犯すことによってのろわれたこの地上が、そののろいを解かれ、エデンの園のように回復するそのときです。聖書にはライオンが羊とともに戯れ横たわる姿が記されています。子どもたちが蛇と戯れるその姿を記しています。そこにはすばらしい祝福があることが約束されています。そのときに12人の弟子たちは、エルサレムにおいてイエスの御座の元でイスラエルの部族を治める12の座に着くことが約束されています。弟子たちはこのことを心から望んでいました。彼らはこの時点では、約束されたことをはっきりと理解していませんでしたが、彼らが望んでいたことはまさにこれだったのです。だから、ヤコブとヨハネの母はイエスのもとにやって来て「**私のこのふたりの息子が、あなたの御国で、ひとりあなたの右に、ひとは左にすわれるように…**」(マタイ20：21)と言ったのです。彼らはその座を恋焦がれていました。彼らはいつか必ず、いや今この時に、イエスがこの地上において王国を設立されると考えていました。だから、そのイエスについて行くときに私たちは必ずそのような祝福、地位、権利を得られると彼らは考えていたのです。

イエスが十字架にかかって復活された後、弟子たちと40日の間、時間を過ごされました。そこでイエスは様々なことを教えられたのですが、その40日が終わってイエスが天に戻られる時、弟子たちはこのようにイエスに言っています。「**主よ。今こそ、イスラエルのために国を再興して下さるのですか。**」と、使徒の働き1：6に記されています。つまり、イエスは40日間彼らに教えていたのです、国の再

興のこと、再び御国をイスラエルに置くことを。そして、彼らはそれが今かと考えていました。彼らは待ち望んでいました。そして、イエスはここマタイの福音書19章で、弟子たちにそのことを約束したのです。すばらしい特権です。あらゆるものを捨ててイエスにつき従った彼らは、すべての者たちを治める者になるのです。これは私たちにも関係があります。前回も見たように、私たちは今、キリストの花嫁として教会に加えられました。私たちは天に上げられて、患難時代の間キリストと婚礼の時を迎えます。まさに、私たちはキリストの花嫁として、キリストの妻としてキリストが再びこの地上にやって来られるときに、この地上に戻って来て、キリストともに千年王国において治める者としてともに過ごして行くのです。

未来における約束、その約束が私たちに、そして、特に弟子たちに与えられていました。けれども、その約束は未来における約束だけではありませんでした。この約束は単に12人の弟子たちだけに与えられたものではありませんでした。彼らと同じようにすべてを捨ててイエスに従った者たちには、実は、それ以上にすばらしい約束が与えられていたのです。そのことを私たちは今日いっしょに見て行きます。ここで私たちはどれ程すばらしい約束が今実際に私たちに与えられているのかということを考えて行きます。現在の約束と永遠における約束です。そして、今日皆さんとこの箇所をしっかりと学び理解して行くその時に、私たちははっきりと、いったいだれが永遠のいのちを受け、永遠のいのちを受けた者にどんなにすばらしい祝福があるのかを知って行くことができるだろうと思います。それは、私たちがどのように神のすばらしい賜物を感謝し、その召しに添って歩んで行くのかと変えさせるものです。

2) 今あるすばらしい約束

マタイ19:27-30「そのとき、ペテロはイエスに答えて言った。「ご覧ください。私たちは、何もかも捨てて、あなたに従ってまいりました。私たちは何がいただけるでしょうか。」:28そこで、イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。世が改まって人の子がその栄光の座に着く時、わたしに従って来たあなたがたも十二の座に着いて、イスラエルの十二の部族をさばくのです。」:29また、わたしの名のために、家、兄弟、姉妹、父、母、子、あるいは畑を捨てた者はすべて、その幾倍もを受け、また永遠のいのちを受け継ぎます。:30ただ、先の者があとになり、あとの者が先になることが多いのです。」

私たちは前回、最初の約束を見ました、未来における約束です。12人の弟子たちに対してイエスは「まことに、あなたがた告げます。」とすばらしい未来の12の座に着く約束を与えました。けれども、私たちはそのことばを聞いて、確かに、12人の弟子たちにはそのような約束があるけれど、いったい私たちは何を受けるのですかと質問したくなると思いませんか？イエスはそれに対して私たちにその答えをくれます。イエスのことばを見てください。29節の最初に「また、」とあります。「また、わたしの名のために、家、兄弟、姉妹、父、母、子、あるいは畑を捨てた者はすべて、」弟子たちと同じようにすべてを捨ててイエスに従った者のことが言われているのです。「その幾倍もを受け、また永遠のいのちを受け継ぎます。」、マルコの福音書10:29-30にはこのように記されています。「イエスは言われた。「まことに、あなたがたに告げます。わたしのために、また福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子、畑を捨てた者で、:30その百倍を受けない者はありません。今のこの時代には、家、兄弟、姉妹、母、子、畑を迫害の中で受け、後の世では永遠のいのちを受けます。」、この約束は私たちのものです。弟子たちだけでなく、弟子たちのようにすべてを捨ててイエスに従った者たちのための約束です。この者たちは非常に大きな交換をしました。どのような交換をしたのでしょうか？彼らは今まで生きた人生すべて、彼らが今まで大切だと思っていたすべてのものと、イエス・キリストを交換したのです。そしてこの者たちに、その交換をしたときに起こる利益は何なのかをイエスはここで私たちに教えてくれるのです。イエスは約束します。マタイには「幾倍も」、ルカもこのことばを使っています。ルカ18:30「この世にあってその幾倍かを受けない者はなく、」、そして、マルコは「百倍」、その百倍を受けられると言います。ここで言わんとしていることは、私たちが想像する以上のものが与えられるということです。通常、私たちが受ける分よりもはるかに大きなものが私たちに与えられるということです。

いったい、だれがそれを受けるのでしょうか？大事なことから繰り返します。それはこの大きな交換、犠牲を伴う交換をしたすべての者が受けると言うのです。「わたしのために」、「わたしの名のために」、「福音のために」、「神の御国のために」とイエスは言います。「家、兄弟、姉妹、母、父、子、畑を捨てた者で」と取り替えたのです、自分の持っているすべてのものを捨ててイエスに従う決心をした者です。それはまるでマタイの福音書13章に出て来る一つの例えのようです。そこでイエスはこのことを言われました。マタイ13:44「天の御国は、畑に隠された宝のようなものです。人はその宝を見つけると、それを隠しておいて、大喜びで帰り、持ち物を全部売り払ってその畑を買います。」と、余りにも高価なものを見つけたゆえに、それを手に入れるためにあらゆるものを売ってその一つを手に入れようと、イエスはこの例えを続けてこう言います。45-46節「また、天の御国は、良い真珠を捜している商人のようなものです。:46すばらしい値うちの真珠の一つ見つけた者は、行って持ち物を全部売り払ってそれを買ってしまいます。」、イエ

スの約束を受ける者は、このように救いというすばらしいものを見つけたゆえに、それを手に入れるためにあらゆるものを捨ててそれを買取ったのです。その交換をした者です。その者に幾倍もの、いや何百倍もの、何千倍、何万倍ものすばらしい報いが与えられるというのです。

でも、それはいったいいつ与えられるのでしょうか？皆さん与えられていますか？それを実感して生きていますか？よく注目して見てください。イエスはここで私たちにいつそれが与えられるのかははっきりと教えてくださったからです。マルコの福音書10：30を見てください。「**その百倍を受けない者はありません。今のこの時代には、家、兄弟、姉妹、母、子、畑を迫害の中で受け、後の世では永遠のいのちを受けます。**」、「**今のこの時代には、**」と言います。いつのことですか？先のことですか？違います。天のことですか？違います。この今の時代のことです。今、私たちが生きているこの時代です。皆さんにはイエスの約束があるのです。このような犠牲を払って、今まで大切にしていたものをすべて捨てて、イエスに従う決心をしたその人には、今この約束が与えられているのです。皆さんは今それを受けているのです。そのように聞くと、皆さん関心を持ちませんか？いったい何が与えられているのかと。「イヤー私にはそのようなものが与えられていますかね。そんな体験はしていないように思うのです。」とおっしゃるかもしれません。しかし、イエスはしっかりとこのことを約束してくださっています。何が与えられているのでしょうか？私たちがイエスに従う決心をして、すべてを捨ててイエスに「従います」と言ったその時に、私たちに何が約束されているのでしょうか？イエスはこう言いました。マルコの福音書が一番詳しく説明しています。「**今のこの時代には、家、兄弟、姉妹、母、子、畑を迫害の中で受け、**」、これが今この時代に私たちに与えられているすばらしい報いです。「百倍の家、百倍の父、兄弟、姉妹、父、母、子ども、そして、畑、それらを迫害の中で受ける。」と。ローソン先生は私たちが現在受けることができる約束、今約束されている約束を三つに分類をしました。それを用いて見て行きたいと思います。

(1) 新しい関係

最初に私たちが受ける何百倍ものすばらしい祝福とは「新しい関係」です。私たちが今まで持っていた最も大切に最も親しく最も愛を持って接していたその人間関係を、私たちが主のために福音のために主の御名のために、神の御国のために捨てる時に、それらを大切にない、イエスの方が大切ですよと言うときに、神は私たちに新しい何百倍もの家族を与えてくださるのです。神の助けによって。皆さんが「イエス・キリストが私の主である、私の主人である。」と、そのことを明確にしたときに、そして、その主の命令に沿って私は生きて行くとその決意をしたときに、それによって私たちが他の関係を横に置いたときに、皆さんが捨て置く一人の関係に対して、神は百倍もの新しい家族を備えてくださるのです。イエスは言われました。ここでも何回かこのみことばを読みました。マタイ10：37「**わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。また、わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。**」、ルカ14：26「**わたしのもとに来て、自分の父、母、妻、子、兄弟、姉妹、そのうえ自分のいのちまでも憎まない者は、わたしの弟子になることができません。**」、イエスは言われます。あなたは今まで家族を愛する生活をして来ましたが、当然のことです。あなたは今まで家族のことを思って、家族のために生きて来たかもしれない。けれども、もしあなたがわたしの弟子になりたかったら、もしあなたがわたしによって救われることを望むなら、あなたはその関係を横に置いて、彼ら以上にわたしを愛さなければいけないと求めたのです。わたし以上に愛するものがあってはいけない。その決断をしたときに、私たちは自分の家族を横に置きました。その代わりに、あなたにはその百倍も家族を与えると。

明らかに、ここでイエスが言っていることは字義的なことではありません。実際に、私に百人の父親ができましたということではないのです。百人の母親や、百人の兄弟姉妹がいるはずはないのです。私たち人間は、血縁関係が最も強いと考えるかもしれませんが。けれども、神が言われることは、私たちに新しい家族が与えられるということです。しかも、その新しい家族というのは、血縁関係、肉体的な関係で結ばれているのではなく、信仰という血によって結ばれているのです。しかも、単なる家族ではありません。私たちはともにキリストのからだの一部なのです。私たちに霊的な家族が与えられるのです。ヨハネは言いました。ヨハネ1：12「**しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。**」、私たちが救われるときに、神は私たちに神の子どもとしてくださる、その特権を与えてくださるのです。パウロは信徒たちに対してこのように言います。エペソ2：19「**こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。**」、ガラテヤ3：26「**あなたがたはみな、キリスト・イエスに対する信仰によって、神の子どもです。**」、同じ主を愛し、同じ主に従う兄弟姉妹、彼らは皆さんの人生にとって切っても切ることができない大切な生活の一部になるのです。そして、それは皆さんが生まれて来た家族との絆以上の関係であると、神は私たちに教えます。

パウロは非常に興味深いことばでこのことを明確に表わしています。ローマ人への手紙16章を開け

てください。何気なしに読んでいると見落としてしまう箇所ですが、パウロはここで今私たちが学んでいることをはっきりと教えてくれます。16:13「**主にあって選ばれた人ルポスによろしく。また彼と私の母によろしく。**」と、何を話しているのかお気付きですか？ルポスとパウロは兄弟ではありません。同じ家に生まれてきた兄弟ではありませんでした。でも「ルポスによろしく、またルポスと私の母によろしく」と言っています。いつこのことが起こったのか私たちにははっきり分かりません。けれども、パウロが宣教の働きをして行く中で、このルポスに出会った時に、ルポスの母親はパウロを自分の子どものように受け入れてくれたのでしょう。パウロが困っている時に、ルポスの母はパウロのためにまるでわが子に接するかのように愛をもって彼を励まし、彼を助け、彼を支えてくれたのでしょう。それゆえに、パウロがこのローマ人への手紙を書くときに、ローマにいたルポスとその母に対して「ルポスによろしく、また彼と私の母によろしく、」と記したのです。このようなことは皆さんも経験ありませんか？

宣教師たちが毎年やって来ます。この夏もこの教会には18人の宣教師たちがやって来しました。正直にこのように言うことが出来ます。「私には18人の新しい兄弟姉妹が与えられました。」と。彼らは私のためにいつも祈ってくれます。彼らは私のために心遣い、助けを与え、私を愛し、私に親しい友情をもって信仰の友として接してくれました。まったく知らなかったけれど、彼らは私にとってすばらしい兄弟、姉妹たちです。また、パウロと同じように私も言うことができます。今ここにいらっしゃる皆さんは「私の母であり、私の父である。私の兄であり弟であり、私の姉であり妹である。」と。皆さんはいつも私のことを覚えていつも私のために祈り、私のことを支えてくださる。パウロはそのことを知っていたのです。だから、パウロは「ルポスと私の母によろしく。」と言うのです。

マッカーサー先生はこのようなことをおっしゃっています。「すべてのものを捨ててキリストのために従う者となった者は、この世において神の家族に加えられる。私たちは、新しい父親たち、母親たち、兄弟たち、姉妹たちを得て、そして、神の家族の中で常にともに過ごすようにして下さった。そのようにされている。」と。どこに行ってもキリストに従うその者には、霊的に愛する多くの人たちに出会うことができるのです。彼は今まで見たことも聞いたこともなかった人たちと会い、この世全体を通して、世界中において、この人たちは自分の嘆きを分かち、霊的に落ち込んでいるときに励ましを受け、あらゆる物質的な必要も霊的な必要も満たそうと勤め助けてくれる愛する家族に出会うのです。皆さんは経験ありませんか？私にはあります。宣教師たちがやって来る時、今日も言ってくれましたが、「皆さんの温かいおもてなしに感謝します。」と。今まで知らなかった、全く会ったことがなかった、聞いたこともなかった兄弟姉妹たちがやって来ると、私たちは彼らとともに神の家族として助け合い、祈り合い、支え合い、励まし合って生きることが出来るのです。

確かに、肉体的な家族を失うことがあるかもしれない。友人関係を犠牲にすることがあるかもしれない。けれども、それに対しての報いは非常に大きいことを私たちは覚えておかなければいけません。なぜなら、神は私たちが神の家族に入れてくださるからです。

(2) 新しい富

新しい富を得ます。マルコの福音書には「**家や、畑**」ということばが記されています。これらは天におけることではありません、この世でのことです。私たちは新しい家、百倍の家を持っているのです。皆さんには百倍の畑があるのです。何のことでしょう？この「家」というのは私たちの新しい家族です。そして、「畑」は彼らの所有物です。彼らに実を实らせ、それが食卓にのぼり糧として神の家族を養うところです。皆さんがいろいろな所に出て行くときに、皆さんがいろいろな必要を覚えているときに、皆さんの家族はその家の門を開けて皆さんを暖かく迎え入れてくれます。皆さんの必要を見た時に、彼らはその家の倉の扉を開けて、その中から彼らの富を皆さんのために使ってくれるのです。皆さん、実は皆さんは大金持ちだったのです。神の家族が皆さんのために家を空け、倉を開けてくれるからです。皆さんにも様々な経験があるでしょう。私にもそのような経験がたくさんあります。つい最近、アメリカで実家に戻った私の家族に、全く知らない方が、その方は妻の両親が行っている教会に通っておられる歯医者さんですが、家族の所に来て「うちにぜひ来てください」と言われて無料で歯科治療を施してくださいました。「働きをして、大変だろうから。」と。私が神学校に行っているときに、たくさんの物質的な必要がありました。アメリカに行って住む所もありませんでした。アパートを借りるお金もありませんでしたが、ある一つの家族が家を解放してくれて私のために部屋をくれました。彼らは冷蔵庫を私のために開けてくれて、彼らの食事を私に分けてくれました。彼らは私の必要を知って私を助けてくれました。ある時には、私が当時持っていた負債を、その必要を知ったある男性が突然やって来てその負債を全部支払ってくれました。アメリカでだけではありません、日本に戻って来てからも皆さんから私は多くの助けを頂きました。皆さんの助けがなければ私は今ここにいることができなかつたと言ってもおかしくありません。様々な必要があるときに、皆さんは実際に物質的な必要を備えてくださり、霊的な助けを与えてくださり、いろいろな励ましを与え、皆さんに支えられて生活をして来しました。

皆さんも同じことが言えるでしょう。自分の倉を見たらその倉は空っぽです。でも、私には家族がいます。神の家族が…。ここにいらっしゃる皆さんが。そして、そこにある富はあまりにも豊かな富なのです。皆さん、捨てても損はないと思いませんか？なぜなら、神の家族が自分たちの倉を開けて皆さんを迎え入れてくれるからです。

(3) 新しい患難

患難が約束されています、迫害のことです。単に、私たちには新しい関係が与えられ、物質的な祝福がそこにあるだけでなく、私たちには迫害をもこの世において約束されているのです。いったいこの迫害はどうして良いのでしょうか？覚えておられますか？イエスが至福の教えの中で教えられたことを。マタイ5：10「**義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人のものだからです。**」、開いている扉もあれば閉まっている扉もあるのです。この世の多くの扉は皆さんに対して閉められています。閉じられています。なぜなら、皆さんは神を愛するからです。皆さんが彼らの嫌いな神に従うから、皆さんが正しいことを正しく行おうとするからこの世は皆さんを憎みます。そして、皆さんを迫害します。キリストを迫害したのと同じように。けれども、そのときに私たちは喜びなさいと言われていました。イエスは続いて12節でこのように言われました。「**喜びなさい。喜びおどりなさい。天においてあなたがたの報いは大きいのです。あなたがたより前に来た預言者たちも、そのように迫害されました。**」と。迫害があるときは私たちははっきり分かります。神の働きを神のために熱心に忠実にして行く時に、神に忠実に従って行こうとするときに起こってくるその迫害は、皆さんに何を教えているのでしょうか？皆さんが天の御国に入るということを教えるのです。それゆえ、私たちが迫害が全く起こらない人生を送っているとすれば、疑問をいだかなければいけないかもしれません。なぜなら、私たちが主に忠実に生きて行くなれば、この世においては必ず困難、迫害が起こるからです。

でも、そのときに私たちは覚えておきなさいとイエスは言われます。「**信仰の勇者たちを見なさい。みんな迫害されています。正しく信仰の道を歩む者には、必ずこの世は迫害を与える。わたしを見なさい。使徒たちを見なさい。その後続く信仰者たちをよく見ていなさい。**」と。皆さん、私たちは迫害されます。家族の中であるかもしれない、未信者の家族が皆さんに対して非常にひどいことを言うかもしれないし、ひどい行動を取るかもしれません。職場において、皆さんの信仰のゆえに様々な問題が起こってくるかもしれません。皆さんは辛い思いをすることがたくさんあるかもしれません。友人関係の中で、ありとあらゆるところでそれが時に起こってくるかもしれません。その時に皆さんは何を一番感謝すると思いますか？そのとき皆さんが行く所、そして、皆さんが何よりも感謝することは何でしょうか？それは神が新しく与えてくださった信仰の家族ではありませんか？皆さんが迫害を受けて悲しみの中で落胆しながら彼らの元に行くときに、新しい父や母、新しい兄弟や姉妹は皆さんの横でともに泣き、ともに嘆き悲しみ、ともに祈り、ともに励まし合い、ともに勇気づけ合って信仰生活を全うしようとしませんか？神はすばらしい祝福を私たちに与えてくださっているのです。皆さん、お気づきになっていなかったら気付かなければいけません。私たちには神の家族が与えられ、神の富がその家族を通して与えられ、私たちは迫害の中ですばらしい祝福を心から感謝することが出来るのです。

神はこのようにすばらしい約束を私たちに与えてくださっています。今、この世で、この地上でキリストに従う者たちに対する報いはこんなに大きいのです。もう一つだけ加えさせてください。もしかすると、皆さんは「でも、私にはそんな家族はいない」と思った時があるかもしれません。また、そのように思わざるを得ない状況に陥ることがあるかもしれません。例えば、このような人はどうでしょうか？宣教師でだれもクリスチャンのいない未開の地に行った人はどうですか？家族はいない、困難な中でひとりぼっち…と思うかもしれません。私たちもそのように思うときがあります。本当は家族がいるにも拘わらず、私たちが目を向けないゆえに、だれもいないと思いついて寂しい思いをすることがあるかもしれません。でも、そのような時、私たちは覚えておかなければいけないことがあるのです。私たちにはもうひとり最もすばらしい家族がいるということです。その方がこう言われました。マルコ3：33-35「**すると、イエスは彼らに答えて言われた。「わたしの母とはだれのことですか。また、兄弟たちとはだれのことですか。」**:34 **そして、自分の回りにすわっている人たちを見回して言われた。「ご覧なさい。わたしの母、わたしの兄弟たちです。」**:35 **神のみこころを行なう人はだれでも、わたしの兄弟、姉妹、また母なのです。**」、イエスがこのように言われたのです。他の人たちが与えることができない安らぎを、人間が備えることが出来ない励ましを、決して、私たちの元を離れることなく、決して、私たちが捨てることがないと約束してくださっている私たちの兄弟であり、私たちが家族と呼んでくださるイエス・キリストを皆さんに与えてくださっているのです。どんなに苦しいときであっても、どんな困難な状況の中にあっても、この方は私たちに本当の満足を備えることが出来る方です。だから、私たちは「**主の家族**」に入れられた祝福を心から喜ぶべきです。私たちは嘆き悲しむ必要はないのです。例え、あらゆるものを捨ててしまっていたとしても、私たちが得るものはそれに比べて遥かにすばらしいものです。

これが今、皆さんに与えられている約束です。皆さんはそれを今実感して生きておられるはずですが、いや、そうでなければいけません。なぜなら、皆さんにはそれが与えられているからです。

3) 永遠における約束

永遠における約束、イエスはこのように続けました。マルコ10:30「**後の世では永遠のいのちを受けます。**」と、これは今のことではありません。千年王国のことでもありません。その後が続く、やがてやって来る後の世のことです。思い出してください。金持ちの青年はイエスのもとにやって来ましたが、何を求めてやって来たのでしょうか？金持ちの青年はこのように言いました。マタイ19:16「**先生。永遠のいのちを得るためには、どんな良いことをしたらよいのでしょうか。**」、これが彼の質問でした、この青年は前に学んだようにこの世の観点から見れば明らかに勝ち組でした。彼は大金持ちでした。彼には権力、力がありました。彼は人々から尊敬されていて、社会のリーダーでした。彼が持っていないものはないと言っても過言ではありませんでした。唯一、彼が「私にはない」と言ったのは「永遠のいのち」でした。だから、彼はイエスのもとにやって来たのです。「どうすれば永遠のいのちを手に入れることができますか？」と。この永遠のいのちとは、単に、終わることがないいのちではありません。このいのちは神との関係のゆえに与えられるいのちです。いのちの源である神と正しい関係ができているときに私たちに与えられるいのちです。人生の目的を与えるいのちであり、このいのちがなければ私たちは単に虚しく存在しているだけです。このいのちは、神に愛された人々に与えられているものであり、神のすばらしさを繁栄して生きる、すばらしい喜びに満ちたいいのちです。彼はそのいのちを求めていました。彼はそのいのちが欲しくてしようがありませんでした。彼は神のいのちを自分のたましいの中に得たいと願ったのです。それで、青年は「どうすればこのいのちを手に入れることができますか？」と尋ねたのです。今まさに、その回答がされています。

だれが永遠のいのちを受けたのですか？イエスのことばを見てください。マタイ19:29「**また、わたしの名のために、家、兄弟、姉妹、父、母、子、あるいは畑を捨てた者はすべて、その幾倍もを受け、また永遠のいのちを受け継ぎます。**」、すべてを捨ててイエスに従った者にそのいのちが与えられるのです。「私はこの地上のことも大切です。でも、イエスさまも大切です。」と言う、そのような者に永遠のいのちはありません。金持ちの青年のように「永遠のいのちが欲しくてしようがないけれど、すべてを捨てなければいけないのなら、私はあなたに従うことが出来ません。」と言う者に永遠のいのちは与えられないのです。なぜなら、そのような者には約束されていないからです。永遠のいのちは、弟子たちと同じように「わたしについて来なさい」という召しに従う者です。自分を捨てて自分の十字架を負い、キリストに従う者に永遠のいのちは与えられるのです。金持ちの青年はイエスの中に特別なものを見出しました。だから、この質問を持ってイエスのもとにやって来たのです。すばらしい質問です。正しい人物に対して為した質問です。なぜなら、イエスはこのいのちを持っておられたから、イエスがこのいのちを与えることができる方だからです。けれども、彼はイエスの要求を「はい」と言って受け入れることをしませんでした。その要求に従うことをしませんでした。逆に、弟子たちはすべてを捨てて「ついて来なさい」ということばに心から従い、献身の決意を持ってイエスについて行ったのです。この青年とは違い、彼らはすべてをキリストのために捨てました。そして、彼らはキリストを彼らの人生の最優先事項にしました。確かに、彼らは完全ではありませんでした。けれども、彼らは心からの決意を持っていました。「わたしは従います。」と。確かに、彼らはイエスが捕えられた時に逃げて行ってしまいました。けれども、彼らはこの献身を持っていたゆえに、イエスのもとに再び集まって来ました。彼らは永遠のいのちを持っていました。そして、彼らと同じようにその決意を持つ者は永遠のいのちを受けるのです。

でも、覚えておられますか？そのような選択を彼ら自身ですることは出来ないのです。なぜなら、らぐだが針の穴を通ることが出来ないとするなら、人間が救われることはもっと無理なのです。なぜ、それが出来たのでしょうか？神が彼らのうちに働いたからです。だから、彼らは神に信じ従う決心をすることが出来たのです。聖書は私たちにすばらしい約束を与えます。

○永遠のいのちが与えられた者への祝福

永遠のいのちが与えられるその時に、私たちはキリストに似た者となると聖書は教えます。

I ヨハネ 3 : 1 - 3 「**私たちが神の子どもと呼ばれるために、——事実、いま私たちは神の子どもです。——御父はどんなにすばらしい愛を与えてくださったことでしょうか。世が私たちを知らないのは、御父を知らないからです。:2 愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現われたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。:3 キリストに対するこの望みをいただく者はみな、キリストが清くあらられるように、自分を清くします。**」

その時に、私たちは「いのちの冠」を受けると言います。

ヤコブ 1 : 1 2 「**試練に耐える人は幸いです。耐え抜いて良しと認められた人は、神を愛する者に約束された、**

いのちの冠を受けるからです。」

また、私たちは「義の冠」を受けるとも言います。

Ⅱ テモテ 4 : 8 「今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。かの日には、正しい審判者である主が、それを私に授けてくださるのです。私だけでなく、主の現われを慕っている者には、だれにでも授けてくださるのです。」

また、私たちは「栄光の冠」を受けると教えられています。

I ペテロ 5 : 4 「そうすれば、大牧者が現われるときに、あなたがたは、しばむことのない栄光の冠を受けるのです。」

私たちの朽ちたこのからだはその時に朽ちないものに変えられ、それゆえに、死は勝利にのみ込まれたという宣言がなされました。

I コリント 15 : 53-54 「朽ちるものは、必ず朽ちないものを着なければならず、死ぬものは、必ず不死を着なければならないからです。:54 しかし、朽ちるものが朽ちないものを着、死ぬものが不死を着るとき、「死は勝利にのみ込まれた。」とするされている、みことばが実現します。」

私たちはその時、天の御国に入れられ、神はそこで私たちの目の涙をぬぐい取ってくださるのです。

黙示録 21 : 3-4 「そのとき私は、御座から出る大きな声がこう言うのを聞いた。「見よ。神の幕屋が人とともにある。神は彼らとともに住み、彼らはその民となる。また、神ご自身が彼らとともにおられて、:4 彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。なぜなら、以前のものが、もはや過ぎ去ったからである。」

そこにはもう死も嘆きも悲しみも苦しみも何もないことが約束されています。そこで私たちは完全な喜びと幸福に満たされて生きる者です。なぜですか？そこでは神と完全な関係を持つことができますからです。神によって私たちの必要がすべて満たされ、私たちの心は喜びで溢れるからです。そこで私たちは、完全な永遠に続く満足と喜びを受ける者になるのです。

これが皆さんに約束されていることです。皆さんが本当に自分を捨て主に従う者であるなら…。ここに究極の回答があります。いったい、私たちは何を受けるのでしょうか？永遠のいのちです。すべてを捨て、主に従う者たちに対して与えられている約束は「永遠のいのち」です。それゆえ、皆さん、今現在もこのいのちを体験していることをご存じですか？皆さんは救われているゆえに、日々キリストに似た者に変えられていませんか？それが起こっているはずですが。皆さんは救われているゆえに、その決心をしてキリストに従うゆえに、神との関係を心から楽しむ者になっていませんか？その関係が壊れる罪が私たちのうちにあるときに、私たちはそれを嘆き悲しみ、それを悔い改め、取り除こうとしまいませんか？この救い、このいのちが与えられているゆえに、皆さんのうちには聖霊が宿り、聖霊は皆さんを満たして御霊の実を生み出しながら、皆さんを生きさせようとしませんか？愛、喜び、寛容、親切…、皆さんはもうすでに、この世が皆さんに与えることが出来ないものを得たのです。なぜなら、皆さんはこの世を捨てたからです。この世のすべてを捨ててイエス・キリストを自分のものとしたゆえに、皆さんにはこのようなすばらしい約束、このようなすばらしい祝福が与えられているのです。

一人の宣教師がいました。ヘンリー・モルソンという人です。彼とその妻は40年間アフリカでの働きを為しました。彼らは自分たちの家を捨て、自分たちの家族を捨て、自分たちの財産を捨て、自分たちの安らぎに満ちた生活を捨て、主のために40年の働きをしました。人生の終わりに、彼らは宣教地を引き上げてアメリカへと戻って行きます。彼らは蒸気船に乗って、アフリカからニューヨークの港へ向けて旅をしました。その旅の途中、夫婦は互いに顔を見合わせて話をしていました。だれか私たちのことを覚えているかしら？この働きを終えて自分の国に戻るに当ってだれか私たちに迎えてくれるかな？彼らはそんなことを話しながら旅路を続けました。船がいよいよニューヨークの港へと向かって進み、その港が見えた時に彼らは驚きました。大きな驚きに包まれました。なぜなら、港には溢れんばかりの人たちがいたからです。彼らはそこで楽器を鳴らしてその船がやって来るのを心待ちにしていました。今まで夢に見ていたこと、想像していたことを遥かに超えるすばらしい歓迎がそこにあったのです。宣教師たちは驚き、そして喜びました。そして、興奮の中で茫洋としていたのです。でも、彼らが知らなかったのは、この船には当時の大統領、セオドール・ルーズベルトがいたことです。その歓迎はすべてこの大統領のためのものだったのです。船を下りようと彼らが甲板に出たときには、もうすでに大統領一行は船を降り、その歓迎の人混みを抜けて去って行った後でした。その歓迎の一人は大統領といっしょに去って行きました。港に降り立った彼らは愕然としました。そこにはだれ一人待っている者はいなかったのです。歓迎のその紙吹雪が舞った後がそこにあるだけで、だれ一人彼らを迎えてくれる者はいませんでした。落胆の中、彼らはホテルに行きました。そして、ご主人は奥さんの顔を見てこう言ったそうです。「40年も主のために働きをして、こうして私たちは一生懸命生きてきたのに、どうしてだれも私たちの所に出て来てくれなかったのだろうか？出来れば、だれか一人でも私たちのことを覚えて歓

迎してくれても良いのではないか。」と。その彼に向かって奥さんは言うのです。「でも、あなた、私たちはまだ自分の国に戻っていないでしょう？まだ家じゃないでしょう？」と。

この地上で私たちが捨てたもの、そして、神がこの地上で約束してくださったものを比べても、私たちは明らかイエスをとるべきです。なぜなら、すばらしい祝福が与えられているから。でも、私たちが本当に待ち望み、私たちが本当に受けるべきすばらしい祝福は、今のこの時に与えられるものではありません。ひょっとすると皆さんはこの人生を生きておられる中で、こんなすばらしい祝福はないと実感して生きることは余りないかもしれない。でも皆さん、本当のすばらしい祝福はまだ待っているのです。私たちが天に上がったときに。そこでだれが何を言ってくれると思いますか？私たちが仕えた私たちの主、私たちが奴隷として仕えるようになった私たちの主人、私たちの王が皆さんに向かって言うのです。「良くやった。良い忠実なしもべよ。」と。皆さん、それ以上に聞きたいことばがありますか？なぜなら、皆さんはすべてを捨ててこの主に仕えることを選択されたのでしょうか？もう他の称賛はどうでもいい、私が聞きたいのはイエスが私に対して言ってくれる「良くやった」というそのことばだけだと。

イエス・キリストはそのことばを私たちに語ってくれます。主に忠実に歩むときに、私たちがすべてを捨ててキリストに従って行く時に。報いはあまりにも大きくてことばにすることは出来ません。私たちは想像することも出来ません。千の何千倍、万の何万倍ものすばらし祝福がそこに待っているのです。だから、私たちは喜んで主に仕えることが出来るのです。報いが待っているのです。私たちは天の報酬に、その永遠の報いに目を向け続けなければいけません。金持ちの青年のように、この地上の富を見つめて天の宝に目を向けることをしないのではなく、私たち皆がこの永遠の報酬にその約束に目を向けて進むことができるようになりたいと思います。私たちが自分たちのすべてを捨てて、キリストを得、そのキリストのために、このいのちをすべてを使うことが出来るように。